

第1回 一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録（要旨）

日 時：平成27年7月1日（水）午後1時30分～3時7分

会 場：一宮市役所 本庁舎11階 1102会議室

出席者：委員19人（代理出席1人）、欠席者1人、事務局6人

1. 開会

2. 市長あいさつ

量でなく、質の議論をお願いします。一人ひとりの生活の質が落ちない、自治体間競争に疲弊するのでなく、この地域が暮らしやすい生活の質が高いまちづくりを、10年見据えて議論いただければと思います。

3. 推進会議の概要について【資料1】

会議の目的（第1条）・意見を述べる事項（第2条）・構成メンバー（第3条）・座長互選（第5条）・会議の公開と定足数（第6条）を説明

4. 定足数の確認

5. 議事

① 座長選任

座長に佐々木委員、座長代理に福井委員を決定

② 会議の公開について【資料2】

受付（第2条）・定員（第3条）・傍聴できない者（第4条）・傍聴人が守るべき事項（第5条）、傍聴人の退場（第7条）を説明、本日の傍聴人に関する報告

③ 一宮市「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定について

▽国の「長期ビジョン」と「総合戦略」の概要版で次のポイントを説明【資料3】

- ・日本の2060年までの人口変化と推移
- ・国の4つの基本目標

▽「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」への一宮市の取組みを説明【資料4】

- ・市関係部署からなる一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部の設置
- ・住民、産業界、行政、教育、金融機関、労働団体、メディアからなる本会議の設置
- ・各種アンケート、市民からの提案募集、市内部でのアイデア研究の実施
- ・スケジュールとして、全5回の会議と市民意見提出制度を経て、来年2月に策定予定

④ 一宮市の人口動態について

▽人口関係の各種資料を説明【資料5】

公表されている4つの人口推計、3つの年齢区分別人口の推計、2010と2040の人口ピラミッド比較、過去10年の社会・自然増減、出生者死亡者数、転出先転入先地域と都市、尾張中西部海部地域の状況、H26婚姻年齢の状況、滞在人口の時間別推移、滞在率順位、県内の都市の人口推移、初婚年齢推移、県内の合計特殊出生率の状況

⑤ 意見交換

市長：人口動態のP11の平日順位について、漠然とベッドタウンを感じていたが、資料から昼間人がいなくなることを改めて分かった。

委員：人口動態のP5について、平成42年に4200人近くが亡くなるという推計もあり、自然増に取り組むとして、それにプラスするとなると、なかなか厳しい数字と思う。

委員：成功例であるフランスですら出生率を2.0越えるのに100年かかった。出生率を2.0に持っていくのはかなり不可能に近いと感じる。最近の統計で65歳以上の働く方が4割あり、働きたい方は多い。ここ10年で女性の活用進んだが、高齢者の活用は進んでいないので、数の多い高齢者人口を地域内外で活用する方法を示してもらい、この分野のパイオニアになることを期待する。

委員：フランスの成功は保育ママ制度がキー・ポイント。女性が働きやすい環境をつくったことが主な要因です。女性にとって住みやすい、働きやすい環境、家族が子育てしやすい環境など、一宮が選んでもらえる住みやすいまちをつくるのが大切。そのためには女性の意見を尊重すべきと思う。

委員：人口を増やすというだけでなく、育ちやすい、ケアする一宮、市として踏み込みづらい児童虐待等の問題にも踏み込めるチャンス。例えば、家庭事情で児童養護施設にいる子どもが18歳になると社会にポンと投げ出されるが、市がそうした子どもを支えることを全面に押し出して、一宮の良さを示す方法もある。
また、一宮は泥棒が多いので、警察署と連携し防犯に力を入れていることもアピールして人を呼び込むとともに、一宮独自の他自治体がやらないことに取り組んでアピールしたら良いと思う。

委員：過去のように会議が形だけとならないように。これが最後という危機感があり、地域全体で共有しながら進める状況がほしい。
公開はカギであり、一宮市は広報(情報発信)や人に思いを伝えるとか上手くなく、望んでいる人に情報を届かないとかあるので、本当に温かい、私達がこのまちに住もうという広報を創生室からお願いしたい。
総合計画や自治基本条例とか、いいものがたくさんあるが、バラバラで縦割り、ここだけで動いていくことを懸念している。
市の全体の取り組みと地方創生、この会議でのつながり、市外にいる出身の方との連携、広報の仕方やその結果としての意見を地方創生にどう取り込んでいくのか、市や委員皆さんの考えを聞きたい。

市長：公開の大切さは議会中継で実証されているように、公開で関心が高まります。この

会議もできるだけオープンにしていきたい。縦割りにならないように、地方創生室 4 名専従スタッフのほか 9 名の各部兼務職員を配置し、横断的に取り組みができる仕組みづくりをしました。

同じ思いですが、外の意見をどう取り入れるかが大切です。地元がいいと思うものを外の人がいいとは分からないので、定住人口・交流人口増やすには外の意見を聞きましょうというのであれば議論進めていきたい。

委員：商店街に昼間お客がいない状況で、名古屋にとられているのが実感。立派になった i・ビルに来る人は多いが留まって外へ出ない。i・ビル、市役所、真清田神社を取り入れる考えをずっと持っている。地方創生の力を取り込んで中心市街地や駅周辺がよくなるために、商店街もやらなければならないという自負はある。

市長：真清田神社前の表参道については、アーケード撤去後の電線地中化工事を 6 月議会で認めていただいたので、しっかり環境整備を行います。

委員：戦略策定の一般論ですが、どんなまち、姿を目指すのかという目標と、現状のギャップに対してどのような一手を打つのかという問題解決が戦略策定の方法。まず、今ある現状の経営資源は何か、観光資源や人口資源など、あるものは何かの整理が必要。それから目指すものを達成するための施策がつながる。

委員：長期ビジョンと今すぐにでもできることがあり、すぐできることはやってほしい。地域の若い子育て世代の方からお聞きするのは、例えば子ども医療費の無料化や保育料の軽減について他市並みにしてもらいたいという声ですので、早く実現してほしい。

委員：独身女性にも住みやすいまちを考えてほしい。防犯面に力を入れてほしい。名古屋や岐阜にも直ぐ行ける便利さは誇れるし、名古屋と違い車が持てる生活ができる。

委員：国の 4 つの基本目標について、この中で重点的に取り組むという市の方向性はありますか。雇用なのか、活性化なのか、出産子育てなのか。

事務局：4 つの目標について地域性を加味した上で取捨選択は必要と判断しており、それに付随した問題として取り組むのかを考える必要があります。人口の状況から、社会増を少しでも維持しながら増やし、出生率 2.0 という大きな目標に向かって自然増に取り組む必要があります。

市長：国の掲げる目標であり、雇用、出産・子育て、地域連携と総合戦略策定にあたり、

市でも別に議論しておりますので、この会議で総合的にご議論いただければと思います。

委員：公開討論会などで市民の意見を聞くとか、委員で別に集まり討論してアイデア出しながら進めるべきと感じています。市民意向把握のためのアンケートについて具体的内容はできていますか。

事務局：アンケートは既にも実施していて、分析はこれからです。転出・転入する方、卒業予定の方、出産前や子育て中の方について行っています。結果は次回にお話ができると思います。

委員：女性の就業率は増えており、周りにも市内で働く女性が多いので目を向けていただくことと、教育費が2、3人目となると嵩むという問題があります。一宮は高校では教育的に環境は恵まれているが、大学は県外に行ってしまうので、いかに戻ってきてもらうことを考えると、一宮市の魅力と小さくても優れた市内企業もたくさんあることを知らせ、そこで働く女性への給料・手当（支援）を考えてもらおうとよい。

委員：「まち・ひと・しごと」という言葉は、諸問題すべてのことにつながることを明確にした。すべての人につながる必要があるので、ここだけでなく公開議論する場所がある。時間がないなか、次の世代につなげられる、短期と長期両面から考えられるプランにならないのか。まちの外に多くいる「一宮ラバー」の知恵を借り学べる仕組みを考え、地方創生につなげてほしい。

委員：雇用は大事な問題であり、市内の雇用喪失が進んでいる。行政がどうかかわるのかを出さないといけない。男性は仕事優先で、ワークライフバランスでライフの部分に支障きたす人が多く、一步踏み込んで仕事優先の人たちについての具体的な議論の場ではないかとも思う。

委員：なかなか関心のない人に関心を持ってもらうのは難しく、ここにいる各分野の皆さんが戻って広報活動をしていただくことも一つの手ではないか。そこで意見を抽出する機会をつくることも取り入れたらどうか。

6. その他

次回会議は8月下旬～9月上旬を予定、決まり次第ご案内。次回会議資料の早めの送付について要望あり。